

は　　じ　　め　　に

昭和48年10月の中東戦争を契機に世界の経済情勢は激変し、GNP世界第2位を誇ったわが日本も石油高騰と品不足にほんろうされ、インフレの高波に国民ひとしくあえいでいる現状ですが、水産業においても、世界的に領海の拡大、漁業専管区域の設定、大陸棚上の資源所属問題など、国際漁場の縮小につながる問題が山積し、本県では漁民依存度の大きいスルメイカ漁業が衰退の道を辿り、漁業資材の不足高騰、燃料高等、水産を取巻く諸情勢は極めて厳しいものがあります。

これらを踏まえて、水産試験研究機関は何をなすべきか、今こそ予算の少ないことをなげくことなく、全知能を奮って、沿岸漁場の高度利用と、未利用資源の活用に対する研究を進め、その成果を漁民に普及することが肝要と考えられます。

昭和49年 3 月

青森県水産試験場長

馬　場　勝　彦